

目標「出場」から「勝利」に



社会人野球チームの和歌山箕島球友会が、12日にパナソニックベースボールスタジアム(大阪府枚方市)で開幕する第85回都市対抗野球大会大阪・和歌山1次予選に臨む。初戦は同日午後1時半から、相手は大阪HDベースボールクラブ。1次予選はクラブチームや専門学校校の計9チームで争い、上位2チームが企業チームも出場する近畿地区2次予選に出場できる。大北匠央主将は「2次予選に進み、企業チームを焦らすような試合をしたい」と力を込めている。

都市対抗野球大会 大阪・和歌山1次予選あす開幕

和歌山箕島球友会

昨年9月、箕島球友会は全日本クラブ野球選手権大会で7年ぶり2度目の優勝を遂げた。この優勝によって出場権を得た社会人野球日本選手権大会では初戦でホンダに敗れたものの、選手たちの気持ちは大きく変化した。原井和也ヘッドコーチは「選手たちは以前は、大舞台で試合することを目指してきた。だが今は、大舞台で勝つことが目標となった」と話す。チームは今年、新人9人を迎え、戦力を増した。阪神タイガースから入った穴田真規選手を遊撃手として抜てきし、選手同士の競争意識も高まっている。

攻守の要は、捕手で長打力のある4番打者、水田信一郎選手。西川忠宏監督は「水田の成長によって、チームはもっと強くなる」とプレッシャーをかける。守備はセンターラインを中心に固め、攻撃では足を絡めた得点を目指す。投手力は、安定感のある三宅悠投手が健在。新人で左腕の高川進投手は将来のエース候補だ。

昨年10月に左足首を骨折した大北主将は、これまで厳しいリハビリに耐え、少しずつチームの練習に参加できるようになった。西川監督は「初戦では『1打席行くぞ』と話している。主将の頑張りで、チームのモチベーションを上げたい」と期待。大北主将は「勝つために必要なレベルが分かっているのがチームの強み。がむしゃらに、やれることを精いっぱい発揮する」と意気込む。【道岡美波】

都市対抗野球大会の予選開幕を前に練習に打ち込む和歌山箕島球友会の選手たち
――有田市宮崎町のマッペン有田球場で